

FESAN×岩手県立大学×JA全農いわて スマイルチャージいわて プロジェクト最終審査会



「原木乾しいたけ」「りんどう」 販路拡大アイデア勢ぞろい

令和2年9月1日、滝沢市の岩手県立大学講堂にて最終審査会が行われました。岩手県の主力農産物のうち、「原木乾しいたけ」と「りんどう」の販路拡大のアイデアについて全30チームから内部審査を通過した7チームが発表を行いました。

最終審査会では、アグベンチャーラボ落合成年専務理事、フェザン工藤正行店長、岩手県立大学高嶋裕一教授、管理部三浦瑞明次長、花き資材課職員2名が審査員として参加しました。

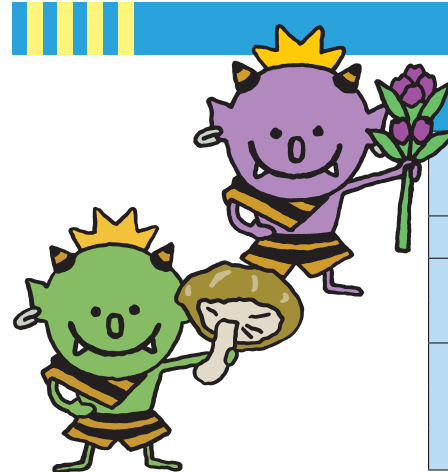


岩手県立大学講堂での最終審査会の様子



アグベンチャーラボ落合専務理事はオンラインで審査していただきました

最終審査会の審査結果



本賞名	企画名
最優秀賞(2点)	喫茶×りんどう
特別審査員賞(1点)	乾しいたけ料理による販売促進
フェザン賞(2点)	花×旅
	花×旅
	「カフェ de しいたけ」
	リンドウ定期便
優秀賞(3点)	美味しいのはどっち!? 菌床VS原木
	我が家のしいたけ計画

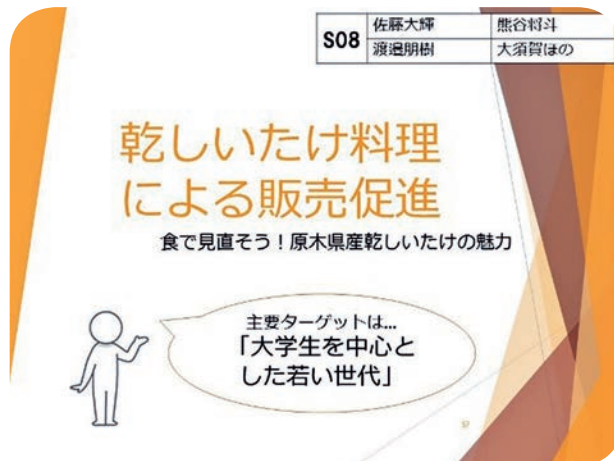
最優秀賞

りんどう部門



「りんどう」の最優秀賞は、仏壇に供える花というイメージを払拭するために、「喫茶×りんどう」という企画を発表。若い世代へ認知度を向上させるため喫茶店にりんどうを飾ることで購入に繋げることが狙いです。

乾しいたけ部門



「原木乾しいたけ」の最優秀賞は、大学生を中心とした若い世代をターゲットに「乾しいたけ料理による販売促進」という企画を発表。乾しいたけを使用した料理の考案からレシピ集の作成、飲食店で提供を目指します。

県本部では、今後の施策として実際にカタチにできるように検討しています。10月17日(土)最優秀賞企画を多くの方に知っていただく場として、お客様参加型+消費拡大を目的とする「いわてアグリキャンペーン」をフェザンにて開催予定です。こうした取り組みを通じ岩手の農業に笑顔をもたらす活動を強化してまいります。



最優秀賞チームへ管理部三浦次長より賞状と賞品が授与されました

生産者応援メッセージ

岩手県農協肉牛経営者連絡協議会(事務局・JA全農いわて)は令和2年8月8日に、「いわて牛」の認知度向上「いわて牛」の消費拡大を目的として、IBCラジオの「水越かおるのすっぴん土曜日」に出演しました。岩手県農協肉牛経営者連絡協議会とは、岩手県内の肉牛経営者の相互の研鑽と緊密なる連絡によって、肉牛の生産性と品質の向上を推進し、肉牛農家の経営安定に寄与することを目的として発足されています。ラジオには、同協議会の会長である畠山正宏が出演し、新型コロナによって厳しい環境下となった肉牛生産現場の状況を伝え、いわて牛の消費を促しました。今回、ラジオのリスナープレゼントの応募条件として、「リスナーから生産者への応援メッセージを寄せること」としており、放送約50分の間に、延べ74件の応援メッセージが寄せられました。応援メッセージをご紹介します。

リスナーさんからの応援メッセージ

お肉を食べると、幸せな気持ちになり、元気が出ます。おいしいお肉を待っている私達消費者のために、これからもお仕事頑張ってください。岩手のお肉、最高!

いわて牛美味しいですね。さしが入って最高!我が家も専業農家でリンゴ、米、小菊の生産しています。お天気に左右されますが、和牛生産者の皆さん、お互いがんばるべし。

生産者の皆さんは、家畜も農作物も人間も暑さ対策も考えながら本当に気を使って作業していることと思います。だからこそ、皆さん。地産地消、岩手の物を大いに応援し毎日元気に過ごしましょう。

毎年、夏休みになると孫達が帰省してくるので、いわて牛を買って皆で美味しく食べています。今年は、コロナの影響でなかなか会えておりませんが、いわて牛を送ってあげる予定です。自慢の牛肉、コロナに負けずにガンバレ!!

放送を聞いて、和牛の価格が大幅に落ち込んでいることが具体的にわかり、生産者の方々の大変さが伝わってきました。この機会に、気になった「いわて牛五ツ星」のステーキを楽しんでみたいと思います。これからは牛肉を買う時は、「いわて牛」をチョイスしたいと思います。

岩手の野菜は、関東方面に送っても大変喜ばれます。天気や自然に左右され大変な仕事だと感謝しながらいただいています。岩手の農業関係の皆さん、毎日ご苦労様です!



NEWS WIDE ANGLE

ニュースワイドアングル

●生産者の思いが詰まった花が勢ぞろい 令和2年9月4日(金)

いわてフラワーコンテスト2020

JA全農いわて主催の「いわてフラワーコンテスト2020」の審査が9月4日(金)矢巾町のJA全農いわて純情産地営農支援センターで行われました。コンテストは、県内花き生産者の技術向上と生産意欲高揚を図るとともに、県内で生産される花き類(切花・鉢花)を広く県内外に紹介し、需要拡大につなげようと毎年開催しています。本県産花きの主力品目「りんどう」「小菊」をはじめ、「オリエンタルゆり」「トルコギキョウ」など県内各地から高品質な花きが148点出品されました。県やJA全農いわてなどの関係者6名が草姿や花つきなどを審査し、30点が入賞しました。厳正な審査の結果、JAいわて花巻の吉田秀子さんが最優秀賞(農林水産大臣賞)に選ばれました。



県内各地から花きが勢ぞろい



一つ一つ丁寧に審査を行いました

●TAC活動のステップアップに向け意識統一

令和2年9月17日(木)

令和2年度岩手県TACパワーアップ大会

JA全農いわては、令和2年9月16日(水)、JAいわて中央パールパレスで「令和2年度岩手県TACパワーアップ大会」を開催しました。大会の目的は、県下全JAの取り組みをTACパワーアップ大会2020(全国大会)へエントリーし、表彰されるJAを目指すことであり、本県のTAC活動のさらなるステップアップに向けて、TACや関係者48名が参加し、活動事例・各種情報の共有等を通じ、相互研鑽をはかりました。

大会では、「TACトップランナーズJA表彰(全国表彰を3回以上受賞したJAが対象)」にエントリーするJA新しいわて(昨年度全農会長賞を受賞)を皮切りに、JAいわて中央・JA岩手ふるさとの2JAが「JA表彰」、JAいわて花巻・JA江刺・JAおおふなと・JAいわて平泉の4JAが「TAC表彰」とそれぞれの部門にエントリーする活動事例を発表し、審査員から講評をいただきました。

基調講演は、昨年度JA広報大賞を受賞したJAとびあ浜松の総務部広報課鈴木一記課長が、新型コロナウイルス感染症対策としてリモートでの講演を行いました。『自己改革を知ってもらうためには』と題し、営農と広報の両方で日本一を受賞した経験から講演を行い、参加者は今後のTAC活動に参考になると真剣に耳を傾けました。



ZOOMを活用した大会の様子



JAおおふなと中村明子調査役による活動報告の様子

米穀部の取り組み

3.“のん”さんを起用した全国プロモーション

令和2年産「いわて純情米」の販売促進と県オリジナル品種の知名度向上を目的に、女優の“のん”さんを起用した全国規模のプロモーションを行います。

去年は稲穂役で、激しい雨風の中、水田の中に佇みながら「絶対負けない。むしろありがとうだよ!」と稲穂の純情な気持ちを力強くのんさんが叫ぶCMを放送し、「いわて純情米」（岩手県産）の認知率はプロモーション実施前が23.2%、実施後が28.4%と5.2ポイント上昇しました。

今年は、自然の恩恵を受け、強くやさしく育った米役となり、「最後の一粒まで美味しい」をストレートに伝えていき、更なる「いわて純情米」の認知率向上を目指します。

米役となったのんさんのCMやポスターを幅広い年齢層の方々が目にするように、消費地圏でのCMやWEB動画、新聞広告に掲載し、「いわて純情米」のPRをしていきます。CMや新聞広告と量販店の売り場が連動するように、精米袋に“新米のんシール”を添付して、販売力強化を図ります。

- CM放送期間(東京・名古屋・大阪・岩手)
令和2年10月1日～10月31日
- WEB動画(YouTube)
令和2年10月1日～令和3年2月28日
- Yahoo!ディスプレイ広告
令和2年10月上旬(5日間)
- 新聞広告(全国紙・地元紙)
令和2年10月
- 精米袋への“のんシール”添付
令和2年10月1日～11月30日

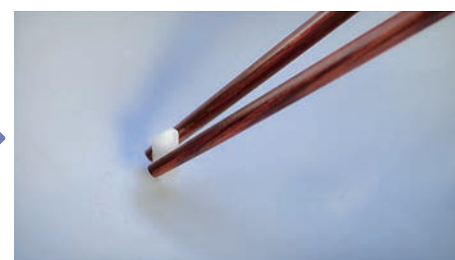
「いわて純情米」新CM



のんさん
「ねえねえ、忘れないで」



のんさん
「わたしはここにいるよ」



最後の
ひと粒まで、
おいしい。



最後の
ひと粒まで、
おいしい。



1.令和2年産「いわて純情米」のPR

岩手県産米の販売促進活動を継続的に実施することで、量販店の棚の確保と、消費者に対する産地PR・試食販売等により購買訴求を図り、「いわて純情米」の知名度向上を目的としたPRを展開します。

併せて、岩手県産「もち米」「酒造好適米」の安定販売に向け、製品の消費拡大を図ります。

2.PR展開の7本柱

- ★消費地圏でのマスメディアを活用した宣伝活動。
- ★女優の“のん”さんを起用した全国規模のプロモーション。
- ★県内外の「生協」との産地交流、販売促進を継続・強化。
- ★店頭で試食マネキンを配置し対面販売による販売維持・拡大。
- ★生産者参加による消費地での販促活動。
- ★小学生スポーツ大会への「切り餅」提供。
- ★日本酒の消費拡大活動。



精米袋に貼る「新米のんシール」



「いわて純情米」PRポスター



米穀部
米穀推進センター
菊池 満

みんなの分教場

フレコン詰米穀の取扱い 及び保管管理について



1 フレコン保管の特徴

フレコンに充填された玄米は、倉庫保管中に穀温が下がりにくく、フレコン内米穀の水分が中心部に集まるという特徴があります。(表1)

これは大型袋のため、庫内空気の高湿度の影響を受けにくく、低温倉庫に入ってもフレコン中心部まで穀温が下がるまでに時間がかかります。

近年、カントリーエレベーター、ライスセンターならびに農業法人等大規模生産者のミニライスセンター等の普及に伴う作業及び流通の効率化を図るため、フレキシブルコンテナバック(以下「フレコン」という。)を活用したバラ流通が増加し、農業倉庫においてもフレコン保管が増えています。

フレコン保管については、通常1トの大型袋を使用するため「大型袋単位のばら密集保管」とも考えられ、個袋詰め保管とは異なる品質管理が求められます。

最近、岩手県内JA倉庫においてフレコン保管している米穀の水分値上昇やカビ米発生の事例が発生しています。

なお、これまでフレコン詰米穀は、農産物検査法において「バラ」扱いとされ、フレコンを「運搬用具」として位置づけ、また、流通しているフレコンの規格も統一されておらず、充填質量も900kg〜1,080kgと様々でした。

農林水産省は、令和2年6月30日に農産物規格規程の一部改正を行い、フレコンを「包装容器」とし、充填質量を1,080kgと決めました。(施行期日は令和3年6月1日)

2 フレコン保管中の事故のパターン

このため、外気温の高い時期(20℃以上)に、低温倉庫に入庫したフレコン詰米穀は、「各個体」や「はい付けされた」はいの中心部の穀温が下がりにくく、水分上昇、肌ずれ米及び胚芽部の変色(カビ等)などが起こりやすいため、注意が必要です。

■表1 倉庫保管14か月後のフレコン内水分

サンプル No.	9月末検査時 水分(%)	翌年11月末(14か月後)のフレコン内水分(%)		
		中心の上部	中心の中部	中心の下部
1	14.8	14.5	15.9	16.3
2	14.8	14.1	15.9	15.9
3	14.8	14.6	16.3	15.6
4	14.8	14.1	16.3	16.3
平均	14.8	14.3	16.2	16.0

注) 資料提供 農業倉庫基金

イ 害虫・カビ事故

収穫後の生籾を、乾燥・調製した後にクーリングや放冷を十分に行わないまま、すぐに籾摺り作業・フレコン充填作業を行うと、充填された玄米は高穀温のまま保管され、水分上昇、害虫やカビが発生する危険があります。



フレコン内部にカビ発生



バイメタル式穀温計による穀温測定

3 事故を起こさないための フレコン保管の留意点

ア 充填前に容器の点検・清掃を実施すること。

イ 籾摺り時は、害虫の混入に注意すること。

ウ 入庫前に穀温・水分など良好な保管条件を整えること。

《高穀温米の早期解消》が決め手

フレコンに充填する前の穀温を冷却し、玄米水分を15%以下にします。やむを得ず外気温の高い時期に籾摺りし低温倉庫に搬入した場合、まず穀温測定し穀温を把握したうえで、庫内で平置きして穀温を15〜16℃に下げた後、はい付けを行うことが必要です。なお、長期保管する場合は、3〜4ヵ月に1回は替えて下さい。

以上のようにフレコン保管は米袋保管と異なる管理方法が必要となりますので、フレコン保管の特徴を理解し適正な保管を実施しましょう。



ワンストップ相談窓口での個別面談

生産者と共に奮闘する
営農支援部の活動をレポート

TRY!

営農支援 レポート

地域の未来のため新規就農者を 積極的にサポート



営農支援部 次長
信田 陽一

今回、ご紹介するのはJAいわて平泉でTAC活動をしている菊地俊郎さんです。JAいわて平泉ではTAC活動の重点訪問先を「新規就農者、就農希望研修生」と定めて活動を行っています。菊地TACは令和2年度、新規就農から5年目以内の就農者を中心に57先を重点的に巡回しており、特に「若い」担い手に役立つ情報を提供できるように心がけています。

JAでは、地域の内外から意欲ある青年層を新規就農者として確保し、早期に経営確立させる仕組みづくりを目指し、平成25年度に「一関地方新規就農トータルサポートシステム」を関係機関と構築しました。

また、平成27年度からは「一関地方新規就農ワンストップ相談窓口」を毎月開設し、メンバーである市町・農林振興センター・農業改良普及センター・JAが新規就農希望者に対して、「就農相談」・実践研修・就農までの一連のアドバイスをを行っています。

菊地TACは関係機関と一体となりワンストップ相談窓口で個別面談を実施。圃場見学会への参加誘導、就農支援のための

補助事業や施策について相談者に説明し、さらには新規就農に向けての研修受講誘導などにも対応することで早期の経営開始に向けたサポートを進めています。

「一関地方トータルサポートシステム」と「TAC活動」が一体化することにより、一関地方の新規就農支援の仕組みが確立し、確実な新規就農者の確保につながっています。就農開始後も、TACによる巡回や面談指導などで営農状況を随時確認しながら、関係機関とも情報共有することで、確実な営農確立に向けたバックアップも欠かしません。

農業従事者の高齢化が進む中で、新たな就農者の発掘や育成と、早期の経営確立の支援に本会もJAと一体となり取り組んでいきます。



担い手農家のハウス前で情報交換

トータルサポートシステムにおける一関地方新規就農希望者研修 受講者数の水位と就農者数推移

単位: 名

研修年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	合計
受講者	2	3	4	4	5	4	3	25
受講者のうち就農者	1	1	3	3	5	4	3	20

TACの声

JA いわて平泉
菊地 俊郎さん



私がTAC活動で心がけていることは、気軽に相談できる関係づくりです。新規就農者や巡回先の担い手が「このことは誰に相談すればいいのか、忙しい時に事務手続きに出向くことが難しい」など困っていることがあったからです。その場での解決や道筋が見つからない場合には、JA関係部署、各関係機関が揃うワンストップ相談メンバー等に相談し、解決に向けた情報提供などを行い、「若い」担い手に役立つTAC活動を今後も続けていきます。

担い手農家の声

一関市大東町(トマト農家)
後藤 修司さん



トマトの栽培を始めて、3年目を迎えました。JAでの研修時から就農当初は全く情報のない中で、菊地TACからは、制度資金や土壤消毒などに関するタイムリーな情報の提供をいただき、非常に助かりました。就農初年度の平成30年度にはJAトマト部会での反収がトップとなり、順調なスタートを切ることができました。暑期中での作業は大変ですが、作付面積の拡大を考えていますので、今まで以上に有益な情報提供のサポートをTACには期待しています。



米穀部 米穀販売課
えちぜんや ゆうた
越前屋 雄大さん

●趣味・特技

旅行、ドライブ、スポーツ観戦

●現在の担当業務

水田活用米穀・原材料米の受渡業務、本会ホームページ「いわて純情米生育状況」の更新業務などを行っています。

●これからどんな職員になってみたいか

業務では農協さんや卸さんなど多くの方々と関わります。皆さんから信頼していただける職員を目指したいです。そのため日々努力し、より多くの経験を積んでいきたいと思っています。

●その他アピール

岩手に来て半年が経過しようとしています。岩手の魅力をもっと発見したいと思っています。岩手の美味しい農畜産物を食べ、これからもより一層業務を頑張りたいと思います。よろしくお願いします！

JA全農いわての
純情人
じゅん じょう びと



【JA全農いわて公式】

Let's Try!!
いわて営農チャンネル



【JA全農いわて公式】
Let's Try!! いわて営農チャンネル



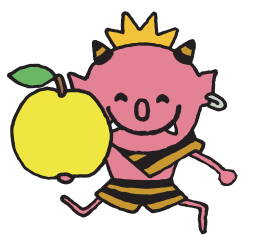
JA全農いわてはYouTubeチャンネル「【JA全農いわて公式】Let's Try!! いわて営農チャンネル」を令和2年8月に開設しました。昨年度から取り組んでいる純情産地確立「繋(つなぐ)プラン」の基本方針の一つである「生産者への情報発信の強化」の一環として、農家のコスト低減・所得増大に役立つ実践メニューの取り組みを紹介します。6月から運用が始まったLINE公式アカウント「JA全農いわて営農情報」と連携し、双方から営農に関する情報を発信しています。

配信する動画は、一部の撮影と音声を「営農支援部スマート農業チーム」の職員が担当しており、営農支援部が中心となって取り組む「農家手取り最大化プロジェクト」のメニューを中心とした内容となる予定です。

チャンネル登録の方法は、YouTubeで「いわて営農チャンネル」と検索。

<https://www.youtube.com/channel/UCdSG3enoSc5jIRrVCpuy4Cg/about>

**「岩手冬恋研究会」公式
Instagram**



岩手冬恋研究会(事務局:JA全農いわて)は消費者に対し、様々な情報発信をおこなうため、公式Instagramを令和2年6月1日に開設しました。岩手県オリジナルブランドりんごである「冬恋」を収穫するまでの生育情報や、栽培する生産者の姿、研究会の活動報告等を投稿しています。

県内の岩手冬恋研究会会員の協力のもと、PR動画「#冬恋食べてける」がInstagram上で公開されています。この動画には、県内の7名の生産者が出演し、数珠つなぎで「冬恋食べてける」と笑顔で呼びかけています。

岩手冬恋研究会は引き続きInstagramに写真と動画を投稿し、「冬恋」の認知度向上、ファン獲得に向けて情報発信していきます。



料理監修/高橋ヒサ子
管理栄養士・いわて糖尿病療養指導士

orders
16

レッツトライ クッキング!

Let's try cooking

小麦粉を使わない
野菜たっぷりカレー

●材料(2人分)

- 米…1合 ●もち麦…10g
- ターメリック(粉末ウコン)…少々
- A(もち麦…10g→茹でしておく、生姜…少々→みじん切り、にんにく…1かけ→みじん切り、玉ねぎ…2分の1個→みじん切り、じゃがいも…2個→みじん切り、にんじん…2分の1本→みじん切り、鶏むね肉…100g→大きめのみじん切り、ピーマン(赤、黄、緑)…各1個→1cm角の角切り、トマト…1個→粗くつぶす、しめじ…2分の1袋→細かく割いておく)
- 炒め油…適量 ●カレー粉…小さじ2 ●だし汁…適量
- しょうゆ…適量

●作り方

- ①米にもち麦とターメリックを入れて一緒に炊く。
- ②カレー用のもち麦は茹でしておく。
- ③鍋に油を熱し、Aを炒めたら、カレー粉を加えてさらに炒める。そこへだし汁を入れて煮込む。煮えたら水分を飛ばし、最後にしょうゆで味を調える。

青森県 岩手県 秋田県 北東北JA-SS

全農
小売農産物・加工品・畜産物・水産物
（青森県・岩手県・秋田県）

あったか灯油 キャンペーン

JA-SSの灯油
お買い上げで

総計924名様に当たる!

キャンペーン期間 2020年10月1日 木 ▶ 12月31日 木

JA-SS賞

24名様
(各様8名様)

¥5,000 JCB GIFT CARD

**JCBギフトカード
2万円分**

※写真はイメージです。

のんちゃん賞

900名様
(各様300名様)

**青森・岩手・秋田の
名産品**

JAアオリン
希望の雫(280ml×24本入り)
りんごストレート果汁(密閉搾り)

秋田
プレミアムファイブ
優秀賞受賞受賞
JA全農あきた
ザプレミアム
ファイブ(2kg)
秋田県産あきたごま

岩手
株式会社いわちく
黒豚真三郎・いわて純情豚愛海
冷しゃぶ食べ比べセット
(ロース肉300g・もも肉300g)

※写真はすべてイメージです。

【応募資格】 キャンペーン期間中に、下記①～③のいずれかを満たしたお客様

① 灯油を100ℓ以上ご購入された方
② 灯油定期配達をお申し込みされた方
(一部実施していないSSを除く)

③ ホームタンクをご購入された方

応募はがきに必要な事項をご記入の上、いずれかをお選びください

切手を貼り
ご郵送

JA配達員へ
手渡し

キャンペーン実施の
JA-SSへご持参

応募締切日
**2021年
1月8日(金)**

当日消印有効

 応募締切後、厳正なる抽選を行います。
当選の発表は賞品の発送をもってさせていただきます。

【ご注意ください】●お一人様何口でもご応募いただけますが、応募はがき1枚につき1口のご応募となります。●一部キャンペーンに参加していないSSがございます。ご利用の際は事前にご確認ください。●お客様の住所や移動先が不明等で賞品をお届けできない場合は当選は無効とさせていただきます。●賞品について諸事情によりお届けできない場合は、予告なしに代替品をお届けさせていただく場合がございます。●当選の権利は譲渡できませんのであらかじめご了承ください。

※お預かりした個人情報、本キャンペーン事務局にて適切に管理し、抽選・賞品発送・当選確認で利用するほか、マーケティング等の目的のため、個人を特定しない統計情報の形で利用させていただきます。また、ご本人の同意なしに業務委託先以外の第三者に開示・提供することはございません。(個人情報保護法により許された場合を除く)

JA SS

青森県JA-SS運営協議会
いわてJA-SSチェーン
秋田県JA-SS連絡会


編集後記

純情産地いわてにも実りの秋が到来。今年も、自然の恵みと農家の愛情をいっぱいうけて育った、おいしいお米ができました。新米の美味しさ、是非食べて感じて下さい。(星)

KLARA

タイトルのKlara(クララ)は、宮沢賢治の手帳にしている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかという願いが込められています。



私たち全農グループは、
**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋**
になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

JA 全農いわて 総合企画課
JA 全農いわてホームページ

〒020-8605 盛岡市大通一丁目2番1号 TEL019-626-8615 FAX019-653-6145
<http://www.junjo.jp>

